

事例の概要

山寺太一さん

記入者 相談支援センターすまいる 相談支援専門員 佐藤はじめ

相談に至る経緯	特別支援学校卒業後、A市のクリーニング工場に就職。仕事は難しい様子もあったが、持ち前の明るく人懐こい性格で工場の社長や社員達にかわいがられており、就労においては特に問題はなかった。 母親は放任的ではあったが、本人に対して関心がないわけではない。 父親が亡くなり、それを機に県外で就労していた前科1犯の兄が帰郷。定職に就かず母親から金銭を取り上げ、暴力をふるい始めた。兄の母親に対する暴力は止まらず、母親は失踪。兄は本人の所持金、給与を取り上げるようになりお金がなくなれば本人を恫喝し、就労先に現れ本人の給与を取り上げるようになったため、就労先の社長が本人に話を聞き、支援学校の先生に相談している。その後A市の福祉課へ相談することとなった。A市福祉課担当は本人、支援学校先生、就労先の社長、相談支援事業所の相談支援専門員、警察と協議し、虐待として取り扱い、本人の安全確保のためのシェルターを探すとともに今後の生活、就労について協議することとなった。 結果、仕事については兄が現れる可能性もあるため、辞めることになった。 B市の共同生活援助事業所「きらり」（介護サービス包括型）に空き部屋があったため体験入居となる。日中は、グループホームの近くの就労継続支援B型事業所「ふわっと」を利用。その後、グループホームを退所する利用者がいたため、本入居という方向となり、正式な利用申請を行うこととなった。
年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	年齢（35歳）・性別（男）山形県A市で出生 家族構成 父～1年前に死去。 母～65歳。家業の農業を行っていたが、長男から暴力を受け現在行方不明。 兄～37歳。本人が高等部2年の時に事件を起こし少年院へ入る。その後親戚の紹介で就職するが、更に事件を起こし収監。出所後県外にて就労。父の死去の後、帰郷するが上記の通りで所在は不定。 親戚 これまでの兄のこともあり、絶縁状態。
手帳・区分	療育手帳B。身体障害者手帳2種3級右半身不全麻痺による右上下肢機能障害。 知的障害。障害支援区分3
生活歴及び病歴	〔生活歴〕 A市にて出生。父親は建設業に従事しながら中規模で農業を行う比較的裕福な家庭で育つ。特別支援学校高等部を卒業。支援学校在学中は明るく人懐こい性格で同級生からも慕われていた。高等部1年生頃より嫌なことがあったり、一度に大きなお金が手に入った時に放浪することが年に2～3回あり、県外にて無銭飲食や無賃乗車などで保護されることがあった。高等部卒業と同時に在学中の実習先であったクリーニング工場に就職。卒業後も年に1～2回程度県外に2日～3日出かけてしまうこともあったが、就労先の理解もあり就労は継続していた。

	〔病歴〕 幼少時に頭部外傷による硬膜下血腫に伴い身体障害が残った。
経済状況	障害基礎年金（２級） 貯金¥１００，０００
望んでいる暮らし	怖い思いをしないで暮らしたい。お金が欲しい。働きたい。たばこを今まで通り吸いたい。 自由に遊びに行きたい
最近の状況	グループホームに体験入居中。 これまでほとんどかかわりのない地域での暮らしで戸惑い、初めはかなり緊張していたが、Ａ市に行かないことで兄の姿を見る心配はないので少し安心はしている様子。グループホームの利用者とは持ち前の明るい性格で打ち解けている様子が見られている。「これからもここで暮らしたい。」という言葉がある。 日中は就労継続支援Ｂ型「ふわっと」に通っている。Ａ市の特別支援学校の同級生がいたため、いろいろなことを聞きながら仕事を進めている様子が見られ、他の利用者ともトラブル等はない。ハンディの重い方の手助けをしている様子も見受けられる。「遊びにいきたいからお金が欲しい」と事業所のスタッフに話があった。 母のことは気にはしているようだが、今は兄から離れたいという思いが強く、自分から母のことを話すことは今のところ見られない。
その他	叔母夫婦がＡ市に在住していたことが分かったので相談に行く。本人家族にはずっと協力してきたが、「今後は関わりを持ちたくない」と話があった。

アセスメント票

記録：相談支援センターすまいる

相談支援専門員 佐藤はじめ

相談日時	平成30年10月1日 10時～11時
氏名等	山寺太一 男性 知的障害 右上下肢機能障害
心身の状況	身長165cm 体重55kg 右腕の肩は動くが可動域が狭い。手首から先は上手く動かないので物を握ったりすることは難しい。歩行は可能。長距離の歩行も可能。右足を引きずりながら歩行するので歩き方に特徴がある。常時、降圧剤を服用しているが、比較的健康である。
精神面の状況	明るい性格で、コミュニケーション能力は高い。穏やかで、声を荒げたりすることはない。難しい話でなければ理解することができる。 自分に都合が悪いことなどがあると緘黙状態が続くことがあり、ストレスをためると県外まで出かけることもある。また、お祭りなどのイベントになると時間を忘れてしまうことがあったり、大きなお金が手に入ると気持ちが大きくなり、電車に乗って出かけてしまうことがある。 じっとしていることが苦手な様子がある。長距離を歩くことは苦にならず、10kmぐらいは普通に徒歩で移動することがある。 電車、バスなど乗り物が好きで、時間があると料金均一の市内循環バスに乗り、市内を回って大型スーパーの店内を歩き回ることを楽しみとしている。一日中バスに乗っていることもある。
生活の自立度	生活面では衣類の更衣や、入浴、洗濯、洗顔や歯磨き、ひげそりなどは自分からしない。グループホームの女性利用者からは「臭う」と言われることがあり、嫌われるのではないかと気にしている様子が見られる。また、就労継続支援費B型事業所では店舗販売の接客の仕事や公共施設の清掃業務などがあり、多くの人に見られるため、たびたび注意を受け、身だしなみについて少し気にするようになりつつある。「ふわっとの所沢さんみたいにかっこよくなりたい」と言っていた。 掃除、洗濯等はほとんどしないが、他の利用者が自分で行っているのを見て、「ここで生活をしていくのなら自分もしなければならない」と世話人や他の利用者に話していた。（できないわけではないが汚れていても、片付いていなくても気にならない様子。これまでは母親が全て声をかけ支援していた） 喫煙習慣があり、たばこがなくなると拾いたばこをすることがある。悪いこととは分かっているが、お金がなくなり空腹になると無銭飲食、万引きすることがあり、放浪する時は無賃乗車等を行うことがある。 金銭管理は難しくお金を持つと全てを使ってしまう傾向があり、5000円程度のお金があると片道で行ける所まで行ってしまうことがこれまで何度もあった。

気持ちの自立度	誰かに依存することはあまりないが、これまで母親からの支援を受けて生活していたため、自立という概念があまりない。ただ、現状の生活については自分で何とかしなければならないと考えている様子はある。
経済状況	障害基礎年金2級を受給。 預貯金¥100,000。
趣味	町中を歩くこと。乗り物に乗ることがとても好き。旅行。イベント、お祭り等。楽しくお酒を飲むこと。
キーパーソン	今のところ支援学校進路指導担当（元担任）
家 族	父は他界。 母は行方が分からない。（本人はどうしているか気になっている） 兄は帰郷したが、現在居所不明。 親戚はいるが兄のことがあり絶縁状態。